

N 中央労福協 ニュース NEWS LETTER



労働者福祉中央協議会
NATIONAL COUNCIL OF WORKERS' WELFARE

発行人 南部 美智代
No. 210

〒101-0052
東京都千代田区神田小川町3-8 中北ビル5F
Tel. 03-3259-1287 URL <https://www.rofuku.net>



第1回労働組合会議を開催

中央労福協は1月22日、第1回労働組合会議をWeb方式にて開催し、35名が出席した。

開催挨拶では、座長の伊藤副会長（フード連合会長）より、1月1日に発生した令和6年能登半島地震により亡くなった方へお悔やみと、被災された方へお見舞いを述べるとともに、救援活動や復旧活動をされている働く仲間々に敬意が表された。また、労働組合会議は加盟労働団体における福祉活動の横の連携や、労福協運動や運営に対する労働団体「ならでは」の提起をいただくことが議論の中心となることから、労働団体に対して積極的な参加を呼び掛けた。

確認事項では「2024～2025年度幹事会における労働団体からの幹事の選出について」を提起し、労働団体における各産業別部門からの幹事選出について確認した。

また、特別講演として、開講中のオンライン連続講座『つながる経済』で社会を変える～ディーセントワークと社会的連帯経済』のコーディネーターを務めていた



伊丹謙太郎教授をお招きし、「オンライン講座『つながる経済』で社会を変えるの愉しみ方」として、これまでのオンライン連続講座の解説と今後の見どころ、社会課題に対する新たな解決策となる社会的連帯経済の発展に向けた労働組合への期待などについてお話しいただいた。加えて、意見交換事項では「『新たな運動の展開と組織運営』にもとづく2024年度の取り組み」「2024年度活動計画（案）」について提起した。

「つながる経済」で社会を変える！

～ ディーセントワークと社会的連帯経済 ～

開催方式

オンライン開催（Zoom ウェビナー使用）

参加申込

参加申し込みフォームよりご登録ください。登録アドレスに視聴 URL を送信します。

参加費

無料

- 学生の方、一般の方も含め、全国どこからでも、どなたでも受講頂けます。
- 当日の視聴者が定員上限を超えた場合は、大変恐縮ですが見逃し配信をご視聴ください。
- 見逃し配信は事前にお申し込み頂いた方に別途、ご案内します。
- 講座終了後に見逃し配信をご希望の場合は、問い合わせフォームよりお申し込みください。
- 見逃し配信は、登壇者のご都合により視聴期限を設ける場合がございます。

どなたでも受講可能！
Chat 質問 OK！

今からのお申し込みでも過去の見逃し配信をすべてご覧頂けます！

講座の詳細（各講義の日程、講師、テーマなど）、参加のお申し込み、お問い合わせ先などについては、右 QR コードから特設ページにアクセス頂くか、中央労福協の公式ウェブサイトからご覧ください。



No.210 Topics

- 2面 幹事団体の積極的な議論参加で労福協運動の発展へ
- 3面 ジェンダー平等やLGBTQをめぐる課題と対応（Web 学習会）
南部ブロックより 定期総会を開催
- 4～5面 SSE 連続講座第5回、第6回レポート
- 6面 ろうふくエール基金取り組みレポート（滋賀・北海道）

幹事団体の積極的な議論参加で労福協運動の発展へ 第1回幹事会を開催



中央労福協は1月26日、第1回幹事会を対面方式にて開催し、40名が出席した。

開会挨拶では、座長の吉成副会長（東部労福協会長）より、能登半島地震など年明けから困難な状況に置かれる方がいらっしゃるが、明るい未来を届けるため、労働団体・事業団体・地方労福協が連携し一丸となって労福協運動や労働者福祉運動を、また、労働団体にとっては春季生活闘争に取り組むことを呼び掛けた。また、幹事会は総会・加盟団体代表者会議に次ぐ決議機関であり、幹事団体の積極的な議論参加のもと、労福協運動の発展をめざそうと挨拶がされた。

確認事項では「2024～2025年度幹事会の構成について」「2024～2025年度政策委員会の構成 および2024年度政策・制度実現に関する申し入れの策定スケジュールにつ

いて」を確認した。また、協議事項では「『令和6年能登半島地震』への対応について（案）」「『新たな運動の展開と組織運営』にもとづく2024年度の取り組みについて（案）」「2024年度活動計画（案）について」「2024年度地方ブロックへの交付金・活動助成について（案）」「ろうふうくエール基金の助成審査について（案）」を確認した。

なお、幹事会での機関確認をふまえ、能登半島地震に対する支援として石川県労福協へ見舞金50万円を送金した。加えて、中央労福協加盟団体や関係団体を対象に、メール配信サービスを活用した情報提供を2月から開始した。また、第2回幹事会（4月24日開催予定）より、全加盟団体からの傍聴参加を受け付けるとともに、幹事会の映像を配信する。

2024～2025年度幹事団体

労働団体	連合	連合
	金属部門	自動車総連
		JAM
	化学・繊維／商業・流通部門	UAゼンセン
	食品部門	JEC連合
	サービス・一般／医療・福祉部門	全国農団労
	情報・出版部門	サービス連合
	金融・保険部門	情報労連
	資源・エネルギー／建設部門	全労金
	公務（官公）部門	全国ガス
		日教組
		全駐労
	交通・運輸部門	私鉄総連
	連合未加盟	国労
	女性枠	JP労組
退職者団体	運輸労連	
特別枠	日本退職者連合	
	労済労連	

事業団体	労金協会
	こくみん共済coop
	日本生協連
	全国会館協
	全勤旅連合会
	日本労信協
	ワーカーズコープ連合会
	日本再共済連
	全福センター
	医療福祉生協連
地方労福協	住宅生協等全国協議会
	北部労福協
	東部労福協
	中部労福協
	西部労福協
南部労福協	

ジェンダー平等やLGBTQをめぐる課題と対応 第40回Web学習会を開催

中央労福協は2月9日、LGBT法連合会事務局長の神谷悠一氏を講師に招き、「ジェンダー平等やLGBTQをめぐる課題と対応」をテーマに第40回Web学習会を開催、119名が参加した。

冒頭、なぜ職場でジェンダー平等やLGBTQをめぐる問題について取り組むのか、職場でのパワハラ等についての取り組みと同様、全ての人に関わる「人権の課題として」捉えると解説。「男女平等」と「性の多様性」はジェンダーに関する規範が課題となる点で通底していると話された。

その上で、LGBTQに関するよくある勘違いを例に基本的な用語・知識について説明されると共に、性自認や性的指向といった性の構成要素は自分の意思や教育等で変えられることなく、異性愛者が明日から「異性愛」を辞めることができないことと同じであると呼びかけた。

また、現在も多くの当事者が差別等を回避するため「当事者である」ことを開示できず、「同性パートナー」の話を「異性のパートナー」等の話に偽ることがあり、話を変えるにあたっては様々な「性別分け」をふまえた内容にする必要があると話す。そういった日常会話における



困難について「当事者の日常を体感しよう」として、「休日に同性パートナーとでかけた話」の例題を「異性のパートナー」とでかけた内容に校正するワークが行われた。

神谷氏は今回のテーマに取り組む意識として、「例えば足の速さが標準的な人が100メートル、速い人が120メートルを同時に走った場合、後者が先にゴールする事もあるが、その人が20メートル不利な状況は変わらない。同じように、社会的に20メートル不利になってしまっていることをどう考えるかということではないか」と提起した。

南部ブロックより

2024年度南部ブロック協議会定期総会を開催

南部ブロック協議会は2月16日、熊本市「ANAクラウンプラザホテル熊本ニュースカイ」において2024年度定期総会を開催した。冒頭、1月1日の令和6年能登半島地震で尊い命を落とされた方々に哀悼の意を捧げる黙祷を行ったのち、南部ブロックを代表して友田会長が挨拶を行った。

総会には55名（来賓・傍聴含む）が出席、来賓として中央労福協南部事務局長、熊本県知事（代理:商工労働部政策審議監）、連合九州ブロック藤田代表幹事に御出席いただき、各々から連帯と激励の挨拶をいただいた。

そして、2023年度活動の総括、そして2024年度活動方針等すべての議案について満場一致で承認され、南部労福協一体となった「福祉はひとつ すべての働く人の幸せと豊かさをめざして、連帯・協同で安心・共生の福祉社会をつくる」運動のスタートを切ることとなった。

総会終了後、長きに亘り水俣病訴訟に取り組んでこられた松野信夫弁護士（元参議院議員）から「水俣病訴訟に学ぶ」と題して記念講演をいただいた。



「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート

プラットフォーム協同組合の可能性と課題



▲中野氏（写真右）と本講座メインナビゲーターの伊丹氏（写真左）

中央労福協は連続講座『『つながる経済』で社会を変える！』の第5回を1月23日に開催し、日本協同組合連携機構（JCA）の中野理研究員からプラットフォーム協同組合の可能性と課題を学んだ。

本講座ではプラットフォームビジネス（GAFAM や Uber など）やそこでの働き方に焦点をあて、第3回は法制度の面から、第4回はそこで働く人々を包摂していく労働運動を学んだ。今回は、もうひとつの選択肢としてプラットフォームを協同組合方式で運営することをテーマにした。

中野氏は、プラットフォームビジネスの問題点や協同組合の基礎知識も交えて、日本ではまだなじみのないプラットフォーム協同組合が世界的な潮流となっていることや、豊富な海外の事例を通じてその魅力を語った。紹介された事例では、ドライバー、ハウスクリーニング、アーティストやクリエイター、民泊、フェアトレード、医療、高齢者介護など様々な分野で自ら協同組合を立ち上げ、労働組合が支援したり、民主的運

営により利用料を格安にしたり、利用者や生産者も加わったマルチステークホルダー型で運営したり、利益を地域にも還元するなどしている。こうした事例から、中野氏は、協同組合による民主的な運営と適正な利益配分、経営的な安定、地域コミュニティにおける経済循環など、協同組合方式がプラットフォームビジネスに取り入れられることで世界が大きく変わる可能性を提起した。

また、参加者との質疑を通じて、勝者総取りの規模の経済を至上命題とするプラットフォームビジネスの中で協同組合が勝ち抜いていけるかという課題もあるが、地域コミュニティと連携して地域性を組み込むことで、従来とは違うビジネスモデルを追求できる可能性についても議論を深めた。

最後に中野氏より、「労働者の権利や主体性、社会正義や公正性を守るため、労働組合でも協同組合でもよいので、働く人びとが分断を超えてつながろう！」とのメッセージを受けて締めくくった。

<連続講座の申込受付中> お申し込み頂ければこれまでの講座の見逃し配信も視聴できます。

第2回 ディーセントワークやSDGsを促進する社会的連帯経済

第3回 フリーランス保護をめぐる世界の流れと日本の法政策

第4回 「曖昧な雇用」で働く人々を包摂する新たな労働運動



詳細・申込は
こちらから！

「つながる経済」で社会を変える！ オンライン連続講座レポート

協同労働という働き方と労働者協同組合法の可能性を考える



中央労福協は連続講座「『つながる経済』で社会を変える！」の第6回を2月14日に開催し、日本労働者協同組合連合会の古村伸宏理事長を講師に、協同労働という働き方と労働者協同組合法の可能性を学んだ。

協同労働とは、働く者が自ら出資して事業・経営を主体的に担い、生活と地域に必要な仕事を協同でおこなう働き方だ。古村氏は、一人ひとりが主人公として職場や地域で「よい仕事」に取り組んできた歴史や、2022年10月に施行された労働者協同組合法の概要や意義を解説。新法制定後に設立された労働者協同組合は、新しい働き方のみならず、地域の自治、主体的・体験的な学び、若者の環境志向、退職後の生きがいと仕事づくり、持続可能性を高める地域産業の創出など様々な分野に及んでおり、労働、企業・経営、経済、民主主義、コミュニティのあり方など多方向にインパクトを与えていく可能性が語られた。

後半はナビゲーターの伊丹謙太郎法政大学大学院教授との対話を通じて、労働者協同組合の基本原理の要

である「意見反映」について、時に困難も伴うが、話し合いをあきらめず、相手を理解し、みんなが納得できるように折り合いをつけていく関係性や組織文化を育むことであり、人と人との関係という協同組合の原点や、共存・包摂・多様性などの本来的なあり方に通じることについて議論を深めた。また、労働者協同組合法の前提はディーセントワークやワーク・ライフ・バランスの実現であり、その接点からの労働運動との協力の可能性を語った。

最後に古村氏は「ワーク・ライフ・ハーモニー」という言葉を提唱し、『料理で具材の個性を損なわずに「和える（あえる）」ように、働くことと暮らすことを切り離さずに和えていく。ワークとライフが奏でるハーモニーが社会的連帯経済ではないか。まずは「私」を大事にして働き方や暮らしを考えるとところから出発し、それを「私たち」、そして「みんなの幸せ」につなげていこう』と呼びかけた。

<連続講座の申込受付中> 第6回の見逃し配信も視聴できます。

<第7回のご案内> 2024年3月29日（金）13:30～14:30（見逃し配信あり）

「国内外の現場の取材から見てきた社会的連帯経済の可能性」

講師 工藤 律子氏（ジャーナリスト）



詳細・申込は
こちらから！



ろうふくエール基金

助成先からの取り組みレポート

滋賀県労福協 各地域に根ざした「フードドライブ」を実施

滋賀県労福協では、「ろうふくエール基金」を活用させて頂き、滋賀県下一円で9地区が4ブロックに集結し、互いの力を合わせ、各地域に根ざした「フードドライブ」を実施させて頂きました。

全体では、「ろうふくエール基金」でレトルト・インスタント食品を540個、お米・お餅を288個、お菓子類を189個購入させて頂きました。それに加えて、各地区でも食材や飲料水、調味料を組合員から募り各市町の社会福祉協議会及びフードバンクを通じて贈呈させて頂きました。贈呈した食材は、主に子ども食堂やお困りの方に向けて提供ができました。

フードドライブの実施時期は、11月1日から11月30日とし各地区で取り組みました。一部を除き、提供させて頂いた品は年末までに各地にお届けでき、地域の子どもの食堂やお困りの方の年末年始の食材として有効活用出来ました。

今後も、「ろうふくエール基金」のみに頼るのではなく、「地区労福協の思い」を足し算として活動を継続してゆき、「福祉はひとつ」の原点を忘れず、加盟団体の結束を強めるとともに、広く多様な団体や市民と、それぞれの取り組み課題に応じて関係を築き連携していきたいと考えているところであります。



▲彦根社協（写真上）と長浜社協（写真下）への食材贈呈の様子

北海道労福協 コロナ禍の生活困窮から脱却できないひとり親世帯へクリスマス支援

北海道労福協が参加する「ほっかいどう若者応援連絡会議」にて、「しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道」が毎年行っている「ひとり親世帯へのクリスマス支援」について参加団体に対して支援要請があり、エール基金を活用して、支援金を送らせていただきました。

支援金については、支援物資（クリスマスクッキー、チョコレート、コーンスープなど8種類の詰め合わせ）の購入資金に活用いただきました。

2023年12月22日（金）道労福協の杉山理事長から平井代表者へ贈呈がされ、道労福協から2名が支援物資の運搬や配布などのお手伝いをさせていただきました。

当日は、100組のひとり親世帯の方に、クリスマスケーキ、オードブル、食品の詰め合わせをプレゼントさせていただきました。

参加者からは、「昨日は子供たちと一緒に無事にクリスマスパーティーができました。度重なる物価高騰で子



供たちには我慢させることが多かったのですが、おかげさまでとても楽しいクリスマスパーティーができました。本当にありがとうございます。」などの感謝の声が「しんぐるまざあず・ふぉーらむ北海道」に届いています。

くわしくは「ろうふくエール基金特設ウェブサイト」をご覧ください！

▼ <https://www.rofuku.net/rofukuyell/>

